

回転移動を表す移動動詞について

高橋 清子

1. はじめに

移動とは時間の経過に伴って起こる物体の位置の変化である。移動動詞で表される移動事象には、移動する物体（および移動を引き起こすもの）、移動の経路や様態、移動の時間的局面などが主な要素として含まれている。その移動事象がいかなる弁別基準によって分類されるのか、その様相はそれぞれの言語で異なる。一般にタイ語の移動動詞は日本語（和語）の移動動詞に比べ意味弁別特徴が細かい。タイ語を母語とする学習者に日本語を教える教師がそうしたタイ語と日本語の移動動詞が表す移動事象の分類の違いを把握しておくことは、移動動詞の用法（比喩的用法を含む）を教えるときに起こり得る誤理解を避けることができるという意味で有益である。

たとえば日本語の「回る、回す」や「巡る、巡らす」などにあたる回転の意味を表す移動動詞がタイ語には（1～9）のように数語存在し、移動物の性質や形状、移動の実質的形態、移動事象に参加するものの力学的な関係などの違いによって使い分けられている。

- (1) 「ウォック (วอก)」 引き返すときのような動きを表す。
- (2) 「ハン (หัน)」 振り向くときのような動きを表す。
- (3) 「ムアン (หมุน)」 タバコを巻くような動きを表す。
- (4) 「ムアン (ม้วน)」 ござが丸まるような動きを表す。
- (5) 「パン (ปั่น)」 糸紡ぎを回すような動きを表す。
- (6) 「クウォン (ควง)」 皿回しのような動きを表す。
- (7) 「ウォン (วน)」 渦巻や竜巻のような動きを表す。
- (8) 「ウィアン (เวียน)」 天体の軌道運行のような動きを表す。
- (9) 「ムン (หมุน)」 地球の自転のような動きを表す。

(1～9)の各動詞の意味特徴のあらましは以下の通りである。まず時間的様態（アスペクト）について言えば、(1～4)は明確な終点を持つ（テリックな）回転移動であり、(5～9)は明確な終点を持たない（アテリックな）回転移動である。(1、2)は位置変化よりむしろ方向変化に意味の重点があり、移動の経路は完全な円にならなくともよい。(1)はある物体が反転すること、(2)はある面の向きが変わることを表す。(3、4)は移動物の形状をかなり具体的に特定する。(3)は平たいものが何かを巻いて円筒形になること（あるいは誰かが平たいもので何かを巻いて円筒形にすること）を表し、(4)は平たいものが巻き縮むこと（あるいは誰かが平たいものを巻くこと）を表す。

(5、6)は本来的に使役移動動詞である。(5)は軸のある物体を回転させることを表し、(6)は柄のある物体を回転させることを表す。一方(7、8、9)は基本的に自発的(あるいは非使役)回転移動動詞である。(7)は一定範囲内での回転移動、(8)は参照点を伴う限定経路上の回転移動、(9)は個体の全体的な回転移動を表す。

本稿では、移動物の自発的な回転移動を基本的意味とするタイ語の3つの移動動詞(7~9)、すなわち「ウォン(วน)」、「ウィアン(เวียน)」、「ムン(หมุน)」に焦点をあて、その認知的な意味の異同を論じ、これらの動詞の空間的意味領域から非空間的抽象的意味領域への意味拡張についても考察する。そうした意味拡張は個々の動詞に特徴的な空間概念によってそれぞれ動機づけられていることを明らかにする。

2. 空間的意味

まず、それぞれの動詞が典型的に表す物理的、空間的意味について説明する。具体例として、主にタイ国立電子コンピュータ技術センター所有のタイ語コーパスから集めた例文を適宜掲げ、簡単な日本語訳を添える。

2.1. 「ウォン(วน)」

「ウォン(วน)」は、たとえば竜巻や渦巻など、ある区切られた空間に存在する連続した物質(風などの気体や水などの液体)の回転移動を意味する。その他、不連続な個体のある一定範囲内での自由な回転移動も表すことができるが、その場合、「パーイ(พาย)、漕ぐ」、「ピン(บิน)、飛ぶ」、「ドゥーン(เดิน)、歩く」などの移動の様態を表す動詞に後続して、その移動が広い視点から見てある範囲にとどまった環状移動であることを補助動詞的に表すことが多い。

- | | |
|---------------------------|----------------|
| (10) หวังน้ำวน | 回る淵(渦巻) |
| (11) ลมวน | 回る風(竜巻) |
| (12) พายเรือวนอยู่ในอ่าง | 池で船を漕ぎ回っている |
| (13) บินวนอยู่เหนือพระนคร | 首都の上空を巡回している |
| (14) พากันเดินวนรอบต้นไม้ | そろって木の周囲を歩いて回る |

2.2. 「ウィアン(เวียน)」

「ウィアン(เวียน)」は、単一あるいは複数の参照点によって定まる経路を巡る回転移動を表す。太陽を巡る惑星の軌道のように一つの参照点を中心とする円周型経路であってもよいし、多くの場所を経由して元の場所に戻るルートのようにいくつかの参照点を巡る鎖輪型経路であってもよい。「ウォン(วน)」と同様、「ウィアン(เวียน)」も移動の様態を表す動詞に後続した場合、補助動詞的に機能し、その移動の経路が何かを参照点とした円を描くことを表す。

- (15) ดาวเสาร์เวียนมา 土星が巡ってくる
 (16) เวียนไปตามเมืองต่างๆ いろいろな都市を巡る
 (17) ผีบินว่อนเวียนเคล้าเรณูเกสรของดอกไม้ 八子が飛び回り花のしべに戯れる

2.3. 「ムン (หมุน)」

「ムン (หมุน)」は、ある有機的組織体が総体的に回転することを表す。たとえば、地球の自転など、個体の軸を中心とした連続回転を表す。

「ムン (หมุน)」は先に述べた「ウォン (วน)」や「ウィアン (เวียน)」と異なる特徴を持つ。第一に、「ウィアン・ティアン (เวียนเทียน)、蠟燭を持って合掌し尊敬するものの周囲を回ること」や「ナスー・ウィアン (หนังสือเวียน)、回覧文書」などの慣用表現を除き、「ウォン (วน)」と「ウィアン (เวียน)」はあくまでも個体の自発的な回転移動しか表現できないのに対し、「ムン (หมุน)」は自発的回転移動だけではなく外力によって引き起こされた回転移動をも表現できる。その使役回転移動事象は、たとえばドアの取っ手を回すときのように、初めから終わりまで力を加え続けなければならないタイプであってもかまわないし、あるいは、たとえば独楽を回すときのように、一度だけ力を加えて後は惰性にまかせるタイプであってもかまわない。しかし後者の場合、本質的に使役動詞である「パン (ปั่น)」が使われることが多い。第二に、「ムン (หมุน)」は様態を表す移動動詞に後続してその移動の経路を特定化するという補助動詞的な機能を持たない。その理由として、「ムン (หมุน)」が表す回転移動は自らの軸を中心としてその場で回転する位置が固定された動きであることが挙げられる。「ムン (หมุน)」は移動の経路よりむしろ様態をクローズアップする動詞であるといえる。

- (18) โลกหยุดหมุนรอบตัวเอง 地球が自転を止める
 (19) กระสุนนัดนั้นยังหมุนเป็นเกลียว あの弾丸はまだ螺旋状に回転している
 (20) หมุนปุ่มปรับแรงดันไฟฟ้า 電圧調整つまみを回す
 (21) หมุนลูกข่าง / ปั่นลูกข่าง 独楽を回す

2.4. 共起傾向

自発的回転を表す3つのタイ語移動動詞のいずれか2つが共起して複合動詞を形成するとき、(22)の表にまとめたような組み合わせになる。*の記号のある組み合わせは、Bradley(1873)の辞書に記載されているものの、現代タイ語では一般的でない組み合わせである。

| | | | |
|-------------|-----------------|------------------|-------------------|
| (22) | -ウォン วน | -ウィアン เวียน | -ムン หมุน |
| ウォン วน- | | ウォンウィアン วนเวียน | *ウォンムン วนหมุน |
| ウィアン เวียน- | ウィアンウォン เวียนวน | | *ウィアンムン เวียนหมุน |
| ムン หมุน- | ムンウォン หมุนวน | ムンウィアン หมุนเวียน | |

3.2. 「ウィアン (เวียน)」

「ウィアン (เวียน)」が表す回転移動事象を特徴付ける空間概念は「限定経路」である。この動詞によって表される回転移動の経路は必ずある参照点によって限定されているからである。この「限定経路」という概念はこの動詞の意味を抽象的に解釈する場合でも重要である。

- | | |
|-------------------------------------|------------------|
| (25) ต้องเวียนว่ายตายเกิด | 輪廻転生が常である |
| (26) รู้สึกเวียนศีรษะ | めまいがする (頭が回る) |
| (27) แต่ละบ้านจะเวียนกันเป็นเจ้าภาพ | 各家が持ち回りでホストをつとめる |

(25～27) は、時間的、心理的、および社会的 (人間関係的) 意味領域への意味拡張の具体例を示している。(25) では人生のサイクル (輪廻) がこの世とあの世を巡る「限定経路」であると見なされている。(26) の話者は自分の頭の周りを何かが回っていると感じている。その回転移動は実際には目に見えないかもしれないが、あたかも自分の頭を中心とする「限定経路」があってそこを何かがぐるぐる回っているように感じるのである。また (27) で「限定経路」と見なされているものは各家庭をむすぶ社会的な絆である。

このように抽象的意味領域に意味が拡張されていても、「ウィアン (เวียน)」の原型的意味である「限定経路」という空間概念の図式的意味は失われていない。

3.3. 「ムン (หมุน)」

「ムン (หมุน)」が含意する重要な空間概念は「総体的回転」という概念である。この動詞は有機体が組織として全体的に回転することを表す。この「総体的回転」という空間概念も抽象的な意味領域に拡張され得る。

- | | |
|--------------------------------------|--------------------------|
| (28) เธอทำให้ฉันหัวหมุน | あなたが私を混乱させた (頭が回る) |
| (29) เป็นนักธุรกิจที่หมุนเงินเก่งกาจ | 果敢に融資を展開する (金を回す) 事業家である |

(28) は話者の心的活動 (混乱) を頭の回転という比喩で表現している。話者の頭が独立した一つの有機組織体と見なされ、それが回転させられたのである。(29) は事業家の社会活動 (融資) をお金の回転という比喩で表現している。お金を動かす金融ネットワークが一つの有機組織体と見なされ、言及された事業家がその中でお金を回転させているのである。これらの比喩表現にはさらに換喩も含まれている。心理的活動あるいは社会的活動をその活動の具体的で顕著な構成要素 (混乱している人の頭、融資に使われるお金) に言及することによって間接的に表現しているからである。比喩にせよ換喩にせよ、「ムン (หมุน)」が表すこれらの抽象的な意味はこの動詞が中核的意味として持つ空間概念から派生していることがわかる。

4. まとめ

本稿では、基本的に自発的回転移動を表すタイ語の3動詞、「ウォン(ວຽນ)」、「ウィアン(ເວີຍນ)」、「ムン(ນຸ້ມ)」を取り上げ、その原型的意味(空間移動)と拡張的意味(抽象移動)を考察した。これらの動詞の原型的意味を弁別するには「制限空間」、「限定経路」、「総体的回転」といった空間認知に関する概念が有用であることがわかった。言い換えれば、タイ語話者はこれらの図式的な空間概念によって自発的回転移動事象を3つに分類しているといえる。さらに、これらの動詞に内包される空間概念がこれらの動詞の意味拡張の基礎をなしていることを論じた。認知言語学では移動動詞に内包される基本的な空間概念がその移動動詞に特定の意味拡張を動機づけるという仮説があり、本稿はそれを裏付ける一つの証拠を提示した。

今回は自発的回転移動を表すタイ語の動詞だけを考察対象としその意味体系を探したが、日本語の移動動詞とタイ語の移動動詞を広く対照して考察することが今後の課題である。日本語とタイ語で表現される移動事象の分類の異同は、文化的社会的文脈の中に存する様式化された視点の取り方や概念化の違い、および人間の認知に関する普遍原理を反映しているはずである。そうした広い意味での認知的機能的観点から日本語とタイ語の移動動詞を対照研究することは、タイ語話者に対する日本語教育に従事する教師にとっても意味がある。移動動詞は言語体系の中で重要な役割を持ち、移動動詞の意味と用法を正しく理解することは言語習得の鍵である。認知的機能的観点から移動動詞の意味を説明して用例を提示すれば、学習者はより包括的かつ効果的にその意味と用法を理解し習得できるのではないだろうか。

参考文献

Bradley, Dan Beach (1873) Dictionary of the Siamese Language. American Missionary Association Press.

謝辞

タイ国立電子コンピュータ技術センター所有のタイ語コーパスを本稿のために使用させていただいた。ここに記して感謝の意を表す。